

科目名	はり実技3							年度	2026
英語科目名	Needle Practice 3							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 2年次	必/選	必	時間数	45	単位数	1	種別※	実習
担当教員	小堀孝浩 宮本陽平 安藤亮	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		
【科目の目的】 1年時に学んだ解剖学的知識を活かし、身体の筋肉、神経、関節部などに対する触診・刺鍼を学び、体得する。その技術を応用し、低周波鍼通電療法（以下、鍼通電療法）の方法と適切に評価する力を身につけることを目的とする。									
【科目の概要】 ①毎回の課題となる解剖学的知識について復習し、触診のイメージ・方法を習得する。②触診のコツを学んだら、実際に課題の筋肉等へ刺鍼を行う。③刺鍼後、鍼通電療法を試み、適切に行えているか評価・理解する。※授業に臨むにあたり、実技の授業は予習・復習が大切になるため、筋骨格系の基礎知識を復習し、イメージを膨らませて、触診の予習・復習をすること、基本的な刺鍼がしっかりできるように予習・復習することが大切である。日頃から練習し、毎回の授業の刺鍼を意識して取り組むことで、全身の様々な部位、深さ、方向への刺鍼が可能となり、鍼通電療法を習得していくことができる。									
【到達目標】 解剖学的知識を復習して、全身の筋肉や神経などをイメージしながら触診・刺鍼できるように修練し、低周波鍼通電療法の基本的な方法を習得することを目標とする。また、鍼通電療法の臨床現場での応用についても学ぶようにする。									
【授業の注意点】 授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできないが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	基本刺鍼が素早く・リズムよくできる。	基本刺鍼がスムーズにできる。	基本刺鍼が問題なくできる。	基本刺鍼が時間がかかるができる。	基本刺鍼が上手くできない。				
到達目標 B	低周波鍼通電療法の機械をスムーズに使い、施術内容も理解して使用できる。	低周波鍼通電療法の機械をスムーズに使える。	低周波鍼通電療法の機械を問題なく使える。	低周波鍼通電療法の機械を時間がかかるが使える。	低周波鍼通電療法の機械を使いこなせない。				
到達目標 C	刺鍼する筋肉など目標となる部位を素早く・的確に触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を的確に触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位の触診に時間がかかる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を触診できない。				
到達目標 D	低周波鍼通電療法の手技を素早く・的確に行える。	低周波鍼通電療法の手技を的確に行える。	低周波鍼通電療法の手技を問題なく行える。	低周波鍼通電療法の手技が時間がかかるが行える。	低周波鍼通電療法の手技が上手くできない。				
到達目標 E	目的とした低周波鍼通電療法ができているか素早く理解し、応用力も身につけている。	目的とした低周波鍼通電療法ができているか素早く理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができているか理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができているか時間はかかるが理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができているか理解力が乏しい。または理解できていない。				
【教科書】 担当教員が資料を作成し、毎回配布する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 実技試験を実施し、評価する。また、予習や毎回提出するプリント、課題などの提出状況、授業の取り組みも評価に加味する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		はり実技3			年度	2026
英語表記		Needle Practice 3			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス、鍼通電療法の総論①	授業の説明、自己紹介を行う。鍼通電療法の手法、利点、注意点を学び、理解する。	1 前期授業内容の説明	年間の授業内容・手順・技術について理解する。	2	
			2 低周波鍼通電療法 (EAT) の概要を説明	低周波鍼通電療法の内容・手術・技術について、どんな方法で、どこまでの技術を習得するか理解する。		
2	鍼通電療法の総論②、体験授業	鍼通電療法のポイント、機械の使い方を学び、理解する。前脛骨筋の鍼通電療法を体験する。	1 EATのポイントの説明	利点と注意点を学び、理解する。	2	
			2 EATの機械の説明	機械の使い方や注意点を学び、理解する。		
			3 EATの体験	足三里穴に刺鍼をし、前脛骨筋のEATを体験する。		
3	基本刺鍼練習、教員への刺鍼練習	基本刺鍼を復習する。教員へ刺鍼を行い、良い点と改善点の指導を受け、直ちに練習し、身につける。	1 基本刺鍼の説明	1年次に学んだ基本刺鍼を復習し、理解を深める。	2	
			2 基本刺鍼の練習	自らの下肢と学生同士で素早く的確な刺鍼を行う。		
			3 教育へ基本刺鍼	自らの刺鍼の長所・短所の指導を受け、技術を学ぶ。		
4	腰背部の鍼通電療法	脊柱起立筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	脊柱起立筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	脊柱起立筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	脊柱起立筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
5	殿部の鍼通電療法	大殿筋と中殿筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	中殿筋・大殿筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	中殿筋・大殿筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	中殿筋・大殿筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
6	大腿前面部の鍼通電療法	大腿四頭筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	大腿四頭筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	大腿四頭筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	大腿四頭筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
7	大腿後面部の鍼通電療法	大腿二頭筋と半腱様筋と半膜様筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼と鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	ハムストリングスの解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	ハムストリングスの触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	ハムストリングスの触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
8	復習の時間・臨床現場について①	第4回から第7回までの復習をする。臨床現場の実際について話をし、新しい情報や現場の情報を得る。	1 解剖学の復習	第4～7回の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 臨床現場の説明	臨床現場の患者の治療や経営について学ぶ。		
			3 EATの実習	第4～7回の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
9	大腿前内側部の鍼通電療法	縫工筋・薄筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	縫工筋・薄筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	縫工筋・薄筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	縫工筋・薄筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
10	下腿前面部の鍼通電療法	前脛骨筋と長趾伸筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	前脛骨筋と長趾伸筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	前脛骨筋と長趾伸筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	前脛骨筋と長趾伸筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
11	下腿外側面の鍼通電療法	長腓骨筋と短腓骨筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	長腓骨筋と短腓骨筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	長腓骨筋と短腓骨筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	長腓骨筋と短腓骨筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
12	下腿後面部の鍼通電療法	腓腹筋とヒラメ筋の解剖学的知識を復習し、鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	腓腹筋とヒラメ筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	腓腹筋とヒラメ筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	腓腹筋とヒラメ筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
13	復習の時間・臨床現場について②	前期試験に向けて復習をする。臨床現場の実際について話をし、新しい情報や現場の情報を得る。	1 解剖学の復習	第9～12回の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 臨床現場の説明	臨床現場の患者の治療や経営について学ぶ。		
			3 EATの実習	第9～12回の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
14	実技試験	実技試験を通して、今までの理解度、技術の習得状況を把握、指導することで、後期授業へ活かす。	1 解剖学の口頭試問	試験対象となった筋肉の理解度を確認する。	2	
			2 触診と基本刺鍼の試験	試験対象の触診・基本刺鍼の技術を確認する。		
			3 EATの試験	試験対象となった筋肉のEATの技術を確認する。		
15	肩上部の鍼通電療法①	僧帽筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼（特につまみ押し）および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	僧帽筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	僧帽筋上部線維の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	僧帽筋上部線維の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等